



清水てつじ

〒520-1121 高島市勝野129-3
TEL 0740-36-2077 FAX 0740-36-0237

http://shimizu-tetsuji.jp



海濱大崎の桜

県議会 レポート

2012年3月発行

北陸新幹線(湖西ルート)計画 ～高島の活性化に期待～

北陸新幹線は、現在、湖西・米原・小浜の3ルートが検討されています。地元自治体の建設費負担など、多くの課題があります。一方、現在、国では暫定的な対策として、新幹線区間も在来線区間も走れるフリーゲージトレイン(軌間可変電車)を湖西線に導入することが検討されています。

高島市にとって、フリーゲージトレイン®導入は、生活ダイヤへの影響、強風による運休、騒音問題等、課題がある一方、大きな経済効果が期待できるため、国・県・市が情報共有しながら、広く議論を進めていきます。



建設費(地元負担金)について

- 湖西ルート…総建設費 約1兆円(県1/3)
- フリーゲージトレインの場合…総建設費 数百億円(県負担なし)
- 米原ルート…総建設費 約3,000億円(県1/3)
- 小浜ルート…総建設費 約1兆円(県1/3)

(金額は概算)

※フリーゲージトレインとは、新幹線と在来線を直通運転できるよう、車輪の左右間隔を軌間交換装置を通過するだけで変換する電車。在来線の線路を改軌する必要がなく、既存の施設を有効活用することができ、新幹線の高速効果を在来線の沿線に広く波及させることが可能。



2月定例県議会 代表質問にたちました

卒原発に対する 知事の考えについて



Q 大飯原発の再稼働をめぐる動きについて

A 知事 原子力安全保安院においてテストの1次評価を妥当とする審査結果がでました。2次評価は今後政府や社会的文脈の中で審査されると理解しています。琵琶湖は閉鎖性水域であり、万のことがあれば次世代まで響きます。安全基準の策定に向け、県の意見を発信していきます。

Q 再生可能エネルギーの 取組状況と今後の推進に どのように取り組むのか



A 知事 平成17年度から個人住宅へ太陽光発電の導入に力を入れ、平成21年度から設置経費を対象に補助をしています。また、「湖国菜の花プロジェクト」支援、バイオエネルギー燃料によるバスの利用モデル事業、再生可能エネルギーの利用可能性調査も実施しました。今後、再生可能エネルギー導入と振興戦略プランの策定をいたします。産業振興の面では電池産業部材の開発支援等、将来は原子力発電所に依存しない社会づくりを目指します。

滋賀県地域防災計画 (原子力災害対策編)の見直しについて

Q 住民避難について

A 知事 放射線量の状況など迅速で適時にわかりやすく提供する必要があります。緊急時モニタリング結果に基づき、予測線量が避難等の指標に定める区分になつた時は、直ちに関係市で示します。広域避難が必要な場合に備えて、予め受入市町と調整を図りたいと考えます。

産業振興と人材育成について

Q 中小企業の人材育成・確保について

A 知事 就業、雇用と仕事そして中小企業振興の構つなぎのマッチングこそ県の本来果たすべき役割と考えます。今後は、お若い若者未来サポートセンターで、ハローワーク等と連携し、中小企業の魅力発信、マッチングを重視した支援をしていきます。

高齢者施策について

Q 高齢者自身が望む 在宅看取りについて



A 知事 自宅だけでなく特別養護老人ホーム等住み慣れた生活の場での看取りと捉えています。介護スタッフの看取り研修、多職種間の情報共有の仕組みづくり、在宅医療支援センターの設置を進めています。

認知症対策の取組について

A 知事 県内の要介護等認定高齢者の約半数が介護や支援を要する認知症と見込まれ、適切なケアのできる人材育成が最も重要です。認知症ケアアドバイザーの養成認定や医療と介護の情報共有の仕組みづくりを進めていきます。

会派活動報告

1/24～26 東日本大震災の影響と対策について

栃木県庁にて、震災時の受入対応や緊急時の電話回線がパンクした様子を行いました。今も、放射能汚染による風評被害や災害廃棄物汚染土壌の処理に苦慮されています。少しでも県民の不安を払拭するため、県独自で家畜の全戸検査、農作物のモニタリング検査に取り組みしていました。



栃木県庁にて



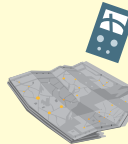
会派でこまめに線量検査

那須野ヶ原土地改良区にて、農業用水路の2mの落差を利用して、最大出力30kwを起す「落差利用型」の小水力発電機4基を設置した百村発電施設を調査。売電料金は、年間700万円。構成員の理解と協力の下、「米と電気は自分づくり」を理念に、地域循環型システムに、地域循環型システム構築に向け取り組まれました。農村地帯が広がる滋賀県でも、可能性を広げていきます。



百村発電所にて

那須塩原市役所は、福島第一原発から100km以上離れた地域にも関わらず、局地的に放射能が検出された地域。昨年8月、那須塩原市放射能対策本部を設置し、教育や保育現場の線量測定と表土の入れ替え、市内を1kmメッシュに区切り、337カ所での線量測定を実施し、住民に解り易く公表。それでも不安な市民のため、いち早く線量計の貸出を行う等不安解消に向け、きめ細かく取り組みました。



那須塩原市役所にて



毎日市民に線量を公表

つくば市にある農村工学研究所は、農業農村の振興を図るため、技術開発の中核を担っている研究機関。無尽蔵に存在する自然エネルギーを活かす、地産地消の仕組づくりに向け、日々研究。環境学習、地域興しにも繋げていく取り組みなど、参考にありました。小水力発電は、滋賀で最も可能性のある自然エネルギーとして期待されています。



農村工学研究所にて

2/9
重症心身障害児(者)施設 びわこ学園医療福祉センター野島は、128名の入所者、通所者を含め1日約400人の方が教育や医療介護を受ける生活拠点。ゆきとどいた支援をするために、専門スタッフが、24時間体制で看護されています。福祉医療を取り巻く環境整備は美態に追いついておらず、専門スタッフやベテランの不足、入所待機者が年々増加する一方、利用者さんやご家族の高齢化など、縦割り行政を廃し、県市地域が一体となった公的支援策を要望いたしました。



24時間体制で看護



利用者さんの作品に釘付け